西東京市市民協働推進センター

平成 26 年度第 9 回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成 27 年 1 月 20 日(火)午後 7 時～9 時
■開催場所：イングビル 3 階第 1、2 会議室
■出席委員：池田委員、久保委員、熊田委員、小嶋委員、紺野委員、坂口委員、田中(友)委員、田中(紀)委員、谷委員、富沢委員、豊永委員、中村委員、藤江委員、＜以上 13 名、五十音順＞
■事務局　：内田センター長、板垣、丸木地域福祉課長、石井地域福祉推進係長、塚澤主事

1. 報　告　事　項

1. 業務報告について

事務局より、12 月期の主催事業、その他事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

委員長　NPO 組織運営について、団体設立等の相談はないのか。

事務局　現在のところない。

2. 1 月以降の実施事業について

事務局より、1 月以降の実施事業である第三者評価委員会、2 月以降の実施事業、近隣 6 市中間支援組織情報交換会、ゆめサロン「心の居場所・まちかど保健室」、第三者評価委員会、地域連携促進事業第 2 回まちづくり円卓会議「子どもの声に向き合うために～今、私たちにできること～」について説明があった。

委員長：まちづくり円卓会議の講師およびファシリテーターの専門は何か。

事務局：安部芳絵先生は子ども全般にわたる子育てがご専門、上田美香先生は小さい子どもの子育てがご専門で、ご両人とも西東京市子ども子育て審議会の専門委員である。

委　員：選考理由は何か。

事務局：西東京市の子ども子育てに詳しい森田明美先生の推薦による選考である。

委　員：まちづくり円卓会議の講師およびファシリテーターをされる上田先生は、私も推薦したい実力のある先生なので期待している。

委員長：大いに期待してお迎えしたい。

委　員：この企画は 2 月 28 日の 1 回で終わるのか。

事務局：3 月 20 日前後で 2 回目を開催予定である。また、次年度についても具体的な動きにつながるまで同テーマで開催していきたいと考えている。

委　員：チラシに「連続」と記載した方が良かったのではないか。

委員長：「円卓会議」自体の説明もあった方が良いのではないか。円卓会議の内容についても先生方に知らせるべきではないか。

事務局：1 月 15 日の打ち合わせで、円卓会議に関する資料をお渡しして説明をした。

委　員：近隣 6 市中間支援組織情報交換会で行う内容について「キーワード」だけでもよいので記載してほしい。

委員長：月次報告の時に報告をお願いする。近隣 6 市中間支援組織情報交換会では、三多摩地区にある他の中間支援組織にも呼びかける提案をするように意見があったと思う。

事務局：近隣 6 市中間支援組織情報交換会内で検討されたが、時期尚早ということで拡大しないことになった。

３．企画提案書について

事務局より、西東京市市民協働推進センター運営受託業務に関する企画提案書について説明があった。

2. 審　議　事　項

１．前回の会議録について

委員長：会議録については、今週末までに意見がなければ確定稿とする。

3. 協　議　事　項

１．来年度の運営委員会委員及びボランティア・市民活動推進事業担当理事候補者について

事務局より、平成 27 年度西東京市市民協働推進センター運営委員会委員及びボランティア・市民活動推進事業担当理事候補者について説明があった。

事務局：今年度末で任期満了により退任となる委員が 4 人いる。優先順位や他の候補者についての情報をお願いしたい。担当理事は 4 月 1 日で任期満了になるが、そのまま担当理事を継続していただき委員長としても継続をお願いすることでよいかお諮りしたい。

委員長：運営委員の定員は 15 人。現行 14 人なので、1 人は増やせるが 14 人で提案している。提案されている方について、推薦、コメントをお願いしたい。次の段階では、優先順位も決めて打診を開始することになる。

委　員：昨年度の人の入替時にも提案したが、企画提案書に 10 人から 15 人の運営委員と記されているが、必ずしも 14 人を維持することにこだわらず、減らすことも考えてはどうか。また、公募委員が 1 人だけなので、公募委員をもう 1 人募集するのはどうか。

委員長：公募委員に関しては、前回は協働コミュニティ課から必ずと言われたと思うが、次年度も言及されているのか。

事務局：西東京市社会福祉協議会の規定の中ではないが、公募委員は 1 人入っていれば良いことになっている。

委　員：運営委員を減らすメリットもあると思う。コンパクトになれば協議内容も密になり、活性化するためにもいろいろな取り組みもできるのではないか。

委員長：このコンパクトにするという意見に対して意見はあるか。

委　員：退任のタイミングによって委員が大幅に交代することが考えられる。今回は退任人数と同じ 4 人は充足しておいた方がいいのではないか。

委　員：分野枠で考えるのもよいが、西東京市を良くしたい意欲のある人に入って欲しい。

委　員：公募委員に期待できるのではないか。今後ゆめこらぼがどういうことを強化していくのか、訴求効果を書いて公募するのはどうか。

委員長：コンパクトにするという案と現状のままという案がある。会議のやり方への提案になるが、今後は会議の中で少人数でのグループ討議をしたいと考えている。

委　員：2 年後を推測し、バランスがとれるように必ず 4～5 人経験者が残れるようなシステムを考えておいたほうが良いと思う。

委員長：平成 29 年 3 月末で退任委員が 7 人いるため、今回は 4 人補充することでよいか。

公募委員についてはどうか。意欲がない人は応募しないと思うが、応募された人がどのような人か判断できない。1 人を公募枠で残すという案もある。運営委員の意見はどうか。社会福祉協議会としての考えはどうか。

事務局：ゆめこらぼが様々な団体と繋がれるような方に入ってもらいたい。今後、多様な協働を行政は

期待すると考えられるので、多くの団体と関わりを作れるよう基盤を作っていきたい。
委　員：公募するときに「市民活動にかかわっている」というような条件をつけられるか。
事務局：条件は付けられると思う。
委　員：公募して1人採用するのがよいのではないか。
委員長：複数の応募があった場合はどうするのか。
事務局：新しい人を見つけ出すことは良いと考える。複数の応募があった場合は、選考すれば良いと考える。
委員長：今のこの時期で公募することは可能か。
事務局： 4月1日号の市報掲載で公募することは可能だ。4月運営委員会にはぎりぎりで間に合う。
委員長：次々期に公募するというやり方もあるが、次期に公募した方がいいという意見はあるか。
委員長：ご意見がないようなので次々期に公募することとする。新規委員候補の方に対する意見はあるか。推薦したい人はあるか。
委　員：NPO市民フェスティバルの実行委員経験者の中から依頼するのはどうか。
事務局：現在の運営委員の中に実行委員経験者はいないが、今後、運営委員の中から実行委員になることも考えられるのではないか。
委　員：運営委員の条件に西東京市在住とか在勤という決まりがあるのか。西東京市以外の人が加わることで違う発想を得られるのではないか。
事務局：市内在住、在勤という条件は特にない。
委員長：月1回委員会開催ということもあるので、市外からの人には負担になる可能性はある。
委員長：本日中に候補者の優先順位を決める必要はないので、提案を持ち帰り新たな推薦も含めて、次回運営委員会で取りまとめた候補者リストについて話し合い、事務局に打診をしてもらうこととする。

委員長：担当理事については、社会福祉協議会の運営委員会設置規則により、ボランティア・市民活動推進事業担当理事が運営委員長を兼ねることになっている。また、西東京ボランティア・市民活動センターの担当という位置づけにもなっている。決定までは、社協の評議員会に設置される選考委員会に提案し、次の評議員で理事候補として提案されるという流れとなる。次年度以降、運営委員も変わるので自薦他薦も含めて意見をお願いする。
委　員：坂口委員長にお願いしたい。
委員長：拍手多数により、担当理事候補として承認されたこととする。

事務局より、「今後の運営委員会の協議事項案」についての説明があった。
委員長：現行の運営委員会のあり方の課題と今後の展開について、バズセッション的にやりたい。5分程度、2人一組で課題と今後の展開について話し、その後全体で話すというやり方でお願いしたい。今日の意見を事務局でまとめていただき、次回運営委員会でそれをもとにまた話し合い、その後、意見を共有したい。
委員長：各グループから発表をお願いしたい。まず私たちのグループから発表する。課題は、事務局の提案に対するコメントに留まっていること。委員発の企画提案もできたらよい。市民活動全般の施策などを議論、学習する場をもつ、グループ討議を30分行う、委員の席は自由とし、事務局も間に入り対峙関係ではなく対等に話し合えるようにするなどの意見が出た。
委　員：提案されたことがどのように反映されているのかが分かりにくい。運営委員会がレベルの低いコンサルタント的なことしかやっていないと思う。提案に対し実行することを決定し実行させ

るには、目標値を出すべきで、運営委員には実行させるだけの責任がある。ターゲットポイントに対して、進捗のレビューをもらい、意見交換を行う。ターゲットポイント、目標値をもち、やらせっぱなしで結果を知らないでいるのは無責任。解決の方法として自分たちも責任をとり、行動をレビュー、報告するなどして自然とコミュニケーションをとれるようにすればいい。

委　員：1 点目の課題は、運営委員会の議論は大事な議論の場で、発言をしなければいけないが難しいこと。細かい内容もあり、発言し難さがある。対処策としては席順や小グループでの対応などで解決できると思う。2 点目は、委員会の役目は、提案されたものに対し発言しっぱなしの状況になっていて責任をとることがないことである。どこまで委員が関わられるのか、進行管理できるのかは難しいと思うので今後の課題だと思う。

委　員：運営委員会で意見を出しても、それが反映されているのかどうか検証されていない。ビジョンがまだ固まっていないのか、あつまる、発信する、繋がるという機能が充実していないためか、新たな人材の発見ができていないのではないか。

委　員：１点目は、運営委員会は多分野で専門家が集まっていることは良い状態だと思う。そこから新しいプロジェクトが生まれたり、新たな情報を得るという多様性は尊重したい。2 点目は、行政職員がカジュアルに参加できる仕組みづくりをしていくと良いと思う。3 点目は、大きな権限はない委員会なので、ゆるくて良いのではないか。大事なことは、ゆめこらぼ事業が充実して市民シップを高めることが究極的な目的なので、そこができているのであれば委員会はゆるくやって良いのではないか。人数をコンパクトにすることで引き継ぎができないのなら規約を変更すれば良いと考える。結果を出していれば良いというくらいのゆるさがあればと思う。

委　員：市から受託している社会福祉協議会の諮問機関なので、私たちが提案しても受けられない状況があるのではないのか。我々が勝手に思い込んで発言を躊躇することがある。対処する手段として、議決をとるという方法がある。意見を出して終わりではなく、最終的なことが事務局任せにするのではなく、議決をとって決めて提案してはどうか。現在は事務局から出てきたものしか話し合っていないので、委員発の議案提案があっても良いのではないか。議決については、その価値を上げるためにも委員会の委員の人数は、ある程度の確保が必要。人数を確保すれば部会を作ることもできる。議会のやり方のように、まずそれぞれの委員会で話し合い、最終的に報告して全員で議決することにより結論を出せる委員会になり得ると思う。

委員長：いろいろ議論したい点もあると思うが、出された意見をまとめてもらい次回でしっかり議論したい。事務局からコメントはありますか。

事務局：他の委員から出されたことで運営委員会の時間について７時からは遅いとの意見もあった。

委員長：開催時間についてはいろいろ意見があると思う。そのことも付け加えて、次回もこの議論を続けていくこととする。

4. そ　の　他

１．次回運営委員会日程について

日時：平成 27 年 2 月 17 日（火）19 時～21 時

会場：イングビル 3 階　第 1、2 会議室